

平成28年度展覧会

(1) 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○ 感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○ 全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

★大規模改修工事のための休館に伴い、4月から8月まで展覧会事業は休止した。9月3日からリニューアル・オープン/総合開館20周年記念展として「杉本博司 ロスト・ヒューマン」展および誘致展「世界報道写真展 2016」を開催し、今年度は、12本の展覧会（3本の自主企画展、4本の収蔵展、5本の誘致展）を開催した

◇ 収蔵展

世界でも有数の3万3千点を超える写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

(1) TOPコレクション展

より多くの作品を多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定して収蔵品で構成するコレクション展。今年度は総合開館20周年記念として東京をテーマに「東京・TOKYO」展を開催した。また、同じテーマで「日本の新進作家 vol. 13」展を同時開催した。図録はCase Publishingより一般書として出版した。

(2) 新規重点収集作家個展

総合開館20周年記念展として新規重点収集作家の「山崎博 計画と偶然」展を開催した。コンセプト的な写真・映像の先駆者である山崎博の60年代から現代までの歩みを再考する公立美術館としては初の回顧展であり、武蔵野美術大学と協力して作品収集もすすめた。

(3) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

総合開館20周年記念として「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」展を開催した。同展覧会は平成18（2006）年度から隔年で開催してきた4つの地方編（「関東」「中部・近畿・中国」「四国・九州・沖縄」「北海道・東北」）の総集編であり、国指定

重要文化財の写真作品、資料をはじめ、当館収蔵作品および日本全国の公開機関を持つ施設への収蔵調査によって選ばれた優品群で構成し、幕末から明治の写真史を再考証した。図録は山川出版社から一般書として出版した。

(4) 映像展

総合開館20周年記念として「アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち」展を開催した。タイの作家、アピチャップンは今最も注目されている映像作家・映画監督のひとりであり、写真やフィルム、ビデオ、インスタレーション、長編映画など多岐にわたる彼の作品を当館収蔵品も交えて紹介した。図録は河出書房新社より一般書として出版した。

◇ 自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に使い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

(1) 新規重点収集作家個展

リニューアル・オープン / 総合開館20周年記念展として、重点収集作家による「杉本博司 ロスト・ヒューマン」展を開催した。世界初公開となる新シリーズ〈廃墟劇場〉に加え、2014年パレ・ド・トーキョー（パリ）で発表し、好評を博したインスタレーションの東京バージョン〈今日 世界は死んだ もしかすると昨日かもしれない〉（自身の作品や蒐集した古美術、化石、書籍、歴史的資料等から構成）、新インスタレーション〈仏の海〉の3シリーズを2フロアに渡って展示し、開館以来最高来館者である67,040人を記録した。

(2) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第13回となる今回は総合開館20周年記念として東京をテーマに「東京・TOKYO 日本の新進作家 vol. 13」展を開催した。また、同じテーマで「TOPコレクション 東京・TOKYO」展を同時開催した。図録はCase Publishingより一般書として出版した。

(3) 恵比寿映像祭

「東京文化プログラム」の基幹事業である恵比寿映像祭。第9回となる今回は、総合開館20周年記念として「マルチプルな未来」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、屋外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント等、多彩なプログラムを実現した。

◇ 誘致展

写真団体や企業、新聞社との協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

総合開館20周年記念事業

TOPコレクション 東京・TOKYO

TOP Collection: Tokyo Tokyo and TOKYO

期間：平成28年11月22日（火）～平成29年1月29日（日）57日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／東京新聞

「日本の新進作家vol.13」展と同一の「東京」をテーマとして開催。「東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する」という収集方針のもとに集められた収蔵作品の中から、戦後から現代までの作品を紹介。「街角で」「路地裏で」「東京エアポケット」「見えないものを覗き見る」「境界線の拡大、サバービア」「どこでもない風景」「多層的都市・東京と戯れる」7つのセクションに分けて41作家による150点を展示した。展示室入口で作品リストのほか、初心者・子供向けに写真を鑑賞する際のヒントを掲載した「じっくり見てみるガイドブック」を配布した。また、東京というテーマが子供にもなじみやすいことから、小・中・高等学校へ働きかけ、スクールプログラムとして17校約560人の児童生徒が見学を訪れ、対話による鑑賞などを通して鑑賞を深めた。展示の最後の部屋のみ会場での写真撮影を可能としたことで、来館者が撮影した写真がSNSなどで広がる傾向もみられた。

出品作家：石元泰博、大西みつぐ、鬼海弘雄、児玉房子、高梨豊、田中長徳、土田ヒロミ、東松照明、林忠彦、三木淳、山内道雄、レオ・ルビンファイン、荒木経惟、倉田精二、森山大道、朝海陽子、伊奈英次、北島敬三、島尾伸三、瀬戸正人、中野正貴、宮本隆司、尾仲浩二、富山治夫、林隆喜、山本紉、秋山忠右、小林のりお、檜橋朝子、ホンマタカシ、須田一政、清野賀子、鷹野隆大、花代、糸崎公朗、佐藤時啓、奈良原一高、西野壮平、畠山直哉、林ナツミ、本城直季

出品点数：150点
入場者数：27,129人
企画：武内厚子

展覧会図録

『TOPコレクション 東京・TOKYO』

TOP Collection: Tokyo Tokyo and TOKYO

執筆者：武内厚子、鈴木佳子

編集：東京都写真美術館、中島佑介、網野奈央

発行：Case Publishing



総合開館20周年記念事業

アピチャッポン・ウィーラセタクン 亡霊たち

Apichatpong Weerasethakul Ghosts in the Darkness

期間：平成28年12月13日（火）～平成29年1月29日（日）39日間
会場：地下1階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
助成：公益信託タカシマヤ文化基金
協賛：株式会社資生堂／Angie Naoko
後援：タイ王国大使館

総合開館20周年記念／収蔵映像展として開催。アピチャッポン・ウィーラセタクンは、国際的に活躍する、タイ出身の映像作家・映画監督であり、タイの東北地方を舞台に、伝説や民話、個人的な森の記憶や夢などの題材から、静謐かつ叙情的な映像作品を制作し続けてきた。アピチャッポンは、写真やフィルム、ビデオ、インスタレーション、長編映画など多岐にわたる方法で、淡々とした日常のなかから人間の深淵を浮かび上がらせていく一方で、タイの現代社会に関わる移民や格差、政治などの社会問題にも密接に関わった作品を発表してきた。本展覧会では、アピチャッポン作品の重要な要素でもある、目に見えない亡霊＝Ghostをキーワードに、社会的、政治的側面にも焦点をあてながら、東京都写真美術館所蔵の映像コレクションの初期作品から日本初公開となる最新作にいたるまで、幅広い時代の作品を展示した。また1階ホールでは、期間限定〔平成28年12月13日（火）～平成29年1月5日（木）〕で「アピチャッポン本人が選ぶ短編集」として、短編25作品4プログラムの上映会を開催し、これまで発表される機会の少ない短編作品を紹介し、展覧会と相互に補完しあう貴重な機会となった。

出品点数：20点（他、資料等多数）
入場者数：14,192人
企画：田坂博子

展覧会図録

『アピチャッポン・ウィーラセタクン 亡霊たち』

Apichatpong Weerasethakul Ghosts in the Darkness

執筆者：アピチャッポン・ウィーラセタクン、四方田犬彦、佐々木敦、

コーン・リッディ、リクリット・ティラヴァーニヤ、田坂博子

編集：東京都写真美術館

発行：河出書房新社



総合開館20周年記念事業

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編

Dawn of Japanese Photography: The Anthology

期間：平成29年3月7日（火）～ 5月7日（日） 22日間（平成29年3月31日までの開館日数）

会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
協力：日本大学芸術学部、一般財団法人日本カメラ財団

総合開館20周年記念展覧会として開催。「知られざる日本写真開拓史」シリーズは、日本全国の美術館、博物館、資料館等の公開機関を有する施設が管理する幕末～明治期の写真・資料を調査し、体系化する試みとして、平成18年度の「関東編」を皮切りに隔年で4回に渡って地方編を開催した。本展は、「総集編」として、これを締めくくる。出品作品および資料は、当館収蔵作品および協力機関である日本大学芸術学部の収蔵作品のほか、日本全国の公開機関を持つ施設へ収蔵調査によって選ばれた作品で構成。イメージではなく「物」として存在するオリジナルとともに、台紙裏面のデザインを鑑賞できる立体的な展示や写真帖の全内容を投影展示するほか、写真に関わる版画、写真機材、書簡などを一堂に会して紹介した。

出品点数：374点（展示替有）

入場者数：6,711人（平成29年3月31日現在）

企画：三井圭司

展覧会図録

『知られざる日本写真開拓史』

執筆：福原義春、高橋則英、ルーク・ガートラン、谷昭佳、三井圭司

編集：東京都写真美術館

発行：山川出版社



総合開館20周年記念事業

山崎博 計画と偶然

YAMAZAKI HIROSHI / CONCEPTS AND INCIDENTS:

A RETROSPECTIVE FROM THE LATE SIXTIES ONWARDS

期間：平成29年3月7日（火）～ 5月10日（水） 22日間（平成29年3月31日までの開館日数）

会場：2階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網

写真・映像を「時間と光」というエッセンスによって捉え、1960年代末より活躍してきた作家・山崎博の仕事をたどる公立美術館で初めての展覧会。長時間露光によって太陽の光跡を視覚化した代表シリーズ〈HELIOGRAPHY〉をはじめ、〈水平線採集〉や〈桜〉のシリーズなど代表的な写真作品と、また作家が写真と平行して追究してきた映像作品、さらに新作を含む出品点数211点によって、現代のコンセプチュアルな写真・映像の先駆者・山崎博の歩みを今日的な視点から通覧した。

出品点数：211点

入場者数：5,015人（平成29年3月31日現在）

企画：石田哲朗

展覧会図録

『山崎博 計画と偶然』

執筆：光田ゆり、北野謙、石田哲朗

編集：東京都写真美術館

発行：武蔵野美術大学出版局



自主企画展

リニューアル・オープン／総合開館20周年記念事業

杉本博司 ロスト・ヒューマン

Hiroshi Sugimoto Lost Human Genetic Archive

期間：平成28年9月3日（土）～ 11月13日（日） 62日間
会場：3階・2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
助成：公益財団法人朝日新聞文化財団
協賛：東京都写真美術館支援会員
協力：公益財団法人小田原文化財団／ヤマトロジスティクス株式会社／
日本貨物航空株式会社／株式会社鴨川商店／山口製材株式会社／株式
会社コルグ／YEBISU GARDEN CINEMA

リニューアル・オープン／総合開館20周年記念展覧会として開催。
杉本博司は1970年代からニューヨークを拠点とし、〈ジオラマ〉〈劇場〉〈海景〉などの大型カメラを用いた精緻な写真表現で国際的な評価を得て、近年は歴史的論考に基づく展覧会や、国内外の建築作品を手がけるなど、現代美術や建築等、分野横断的な活動をしている現代作家である。本展覧会は人類と文明の終焉という壮大なテーマを掲げ、最新作を中心に展示した。3階展示室では、本邦初公開のシリーズ〈今日 世界は死んだ もしかすると昨日かもしれない〉を展示。錆びたトタンと古材で展示室を覆い、杉本の蒐集品である古美術、化石、書籍、歴史的資料等と自身の作品を用いて、文明が終わる33のシナリオに基づき空間構成した。2階展示室では、杉本の代表作〈劇場〉の発展したシリーズで、世界初発表となる写真作品〈廃墟劇場〉と新インスタレーション〈仏の海〉を展示し、私たちがつくりあげてきた文明や認識、現代社会を見つめ直し、人類と文明が遺物となってしまうまいよう、その行方を再考する機会を創出した。

出品点数：241点（他、資料等多数）
入場者数：67,040人
企画：丹羽晴美

展覧会図録

『杉本博司 ロスト・ヒューマン』

Hiroshi Sugimoto: Lost Human Genetic Archive

執筆：杉本博司、三木あき子、丹羽晴美
編集・発行：東京都写真美術館



総合開館20周年記念事業

東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13

Tokyo・Tokyo and TOKYO: Contemporary Japanese
Photography vol.13

期間：平成28年11月22日（火）～ 平成29年1月29日（日） 57日間
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
助成：芸術文化振興基金
協賛：凸版印刷株式会社 東京都写真美術館支援会員
協力：株式会社カシマ 金丸真株式会社 キヤノンマーケティングジャパ
ン株式会社 有限会社東京カラーエ芸社 株式会社西村カメラ

本展は人口が1000万人を超え、世界有数の都市として知られている「東京」をテーマとし、6人の新進作家を取り上げた。東京のイメージは、メディアによって画一化されている側面も否めないが、19世紀に写真技術が輸入されてから、多くの写真師、写真家によって記録、表現されてきた。実際には人々が生活し、変化し続ける多様な場でもある東京を、現代の写真家たちはいかに描くのか。本展は6人の新進作家による「今」の東京を提示した。

出品作家：小島康敬 佐藤信太郎 田代一倫 中藤毅彦 野村恵子
元田敬三
出品点数：203点
入場者数：21,142人
企画：藤村里美

展覧会図録

『東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13』

Tokyo・Tokyo and TOKYO:

Contemporary Japanese Photography vol.13

執筆：藤村里美、小島康敬、佐藤信太郎、田代一倫、中藤毅彦、
野村恵子、元田敬三
編集：東京都写真美術館、中島佑介、中村水絵（HeHe）
発行：Case Publishing



総合開館20周年記念事業

第9回恵比寿映像祭「マルチプルな未来」

Yebisu International Festival for Art & Alternative

Visions 2017: Multiple Future

期間：平成29年2月10日（金）～2月26日（日） 15日間

主催：東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／日本経済新聞社
共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館
後援：株式会社東京放送ホールディングス／J-WAVE 81.3FM
助成：アジア・カルチュラル・カウンシル
協賛：全日本空輸株式会社／オーストラリア大使館／オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラム／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員
協力：KyotoDU／びあ株式会社／ドゥービー・カンパニー株式会社／株式会社トリプルセブン・インタラクティブ／株式会社ロボット

第9回恵比寿映像祭は、「マルチプルな未来」を総合テーマに、映像が個人や社会のあり方にもたらす変化について考察した。また、約2年にわたる改修工事を経て、リニューアル・オープンした東京都写真美術館全館を使用した初めての開催となった。19カ国の国と地域より99名の作家およびゲストが出品・参加し、東京都写真美術館全館フロア、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンルーム、センター広場や日仏会館、地域連携各所などの複合会場で、展示、展示関連パフォーマンス、上映、ライブ・イヴェント、シンポジウム、レクチャー、ガイドツアーなど多彩なプログラムを展開した。

展示（会場：東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室および3階、2階ロビー）

森村泰昌／レイ・レイ／澤田知子／笹本晃／金氏徹平／ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノ／エティエンヌ＝ジュール・マレー／ズビグ・リプチンスキー／石川卓磨／オープンエンデットグループ&ビル・T・ジョーンズ／崙利子／豊嶋康子／ルーシー・レイヴン／コルネリア・ゾルフランク／フォレンジック・アーキテクチャー／ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング

展示関連パフォーマンス（会場：東京都写真美術館 3階展示室内／2階ロビー）

3階展示室 | 笹本晃
2階ロビー | ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノ

ラウンジトーク（会場：東京都写真美術館 2階ロビー）

レイ・レイ／豊嶋康子／ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング／荒木博志、岡田邦雄、佐々木聖 [地域連携プログラム LIBRAIRIE6] / 崙利子／金氏徹平、木ノ下智恵子／澤田知子／森村泰昌／石川卓磨

オフサイト展示（会場：恵比寿ガーデンプレイス センター広場）

金氏徹平

展示（会場：日仏会館 ギャラリー）

空族+スタジオ石+YCAM

上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

①フィオナ・タン《歴史の未来》ジャパンプレミア（ゲスト：山田裕理）
②相互接続への夢―《ドリームズ・リワイヤード》ジャパンプレミア（ゲスト：マヌ・ルクシュ）③《スーザン・ソングについて》―マルチプルな私を生きる ジャパンプレミア④「日本零年」vol.1《イリュミナシオン》―長谷川億名特集（ゲスト：長谷川億名）⑤「日本零年」vol.2《DUAL CITY》―長谷川億名特集（ゲスト：長谷川億名）⑥ガレキあるいはSF（ゲスト：三宅唱／鈴木了二／降矢聡）⑦ヨーロッパからの実験映画：「制作年なし。」（ゲスト：リン・ルー）⑧ダンスのマルチプルな未来（ゲスト：中島那奈子）⑨DigiCon6 ASIA―ショートムービーから見えてくるマルチプルなアジア（ゲスト：姫田真武／山田亜樹）⑩イヴォンヌ・レイナー《特権》[16ミリフィルム上映] ⑪ロバート・クレマー《アイス》[16ミリフィルム上映]

スペシャル上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

⑫《バンコクナイツ》スペシャル上映&トーク（ゲスト：富田克也／相澤虎之助）

シンポジウム（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

A. 「マルチプルな未来」へ Part 1: 芸術とスペキュラティブ・コモンズ（ゲスト：コルネリア・ゾルフランク／久保田晃弘／八田真行）／B. 「マルチプルな未来」へ Part 2: マージナルな映像アーカイヴィングの可能性（ゲスト：松山ひとみ／真喜屋力／三好大輔）

レクチャー（会場：東京都写真美術館 1階スタジオ）

C. イヴォンヌ・レイナーをめぐって―ポストモダンダンスと映像の間（パネリスト：松井みどり／外山紀久子／武藤大祐）／D. スーザン・ソング―その思考と生き方に学ぶ（パネリスト：新田啓子／菅野優香）

日仏会館共催企画 シンポジウム（会場：日仏会館 ホール）

E. [日仏会館共催企画] シネマトグラフ日本伝来―稲畑勝太郎とリュミエール（パネリスト：小松弘／岡田秀則／上田学、司会：岡真理子）

ライブ・イヴェント（会場：ザ・ガーデンルーム）

I. YEBIZOナイツ | Side A: マルチプル／アナログ（出演：リン・ルー／入手杏奈／恩田晃）
II. YEBIZOナイツ | Side B: マルチプル／キカイ（出演：恩田晃／山崎広太／宇治野宗輝）

地域発信プロジェクト（会場：COMMON EBISU [恵比寿ガーデンプレイス グラススクエア内]）

「YEBIZO MEETS」I特別セッション（ゲスト：伊東豊雄／北川フラム、モデレーター：関康子）／「YEBIZO MEETS」II地域発信トーク：伊東建築塾（ゲスト：伊東豊雄／アストリッド・クライン／太田浩史、モデレーター：古川きくみ）／「YEBIZO MEETS」IIIリンクセッション：オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラム（ゲスト：マヌ・ルクシュ／畠山直哉）／「YEBIZO MEETS」IVダンス保育園!! 主催：ダンス保育園!! 実行委員会（演出：篠崎芽美、出演：ダンス保育園!! ダンサーズ、歌と演奏：坂本美雨／国広和毅）[連携発信事業]

地域連携プログラム（会場：地域連携各所）

公益財団法人日仏会館／YEBISU GARDEN CINEMA／伊東建築塾／MA2 Gallery／Gallery工房親／MuCuL studio／NADiff a/p/a/r/t/G/P gallery／MEM/statements／WAITINGROOM／NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト] /AL (企画：TRAUMARIS) / LIBRAIRIE6

※本事業は、「東京文化プログラム」(アーツカウンシル東京・フェスティバル事業)の一環として開催した。

誘致展

出品点数：計89点（展示作品45点／上映作品37点／オフサイト作品1点／ライブ作品6点）

入場者数：53,617人（※地域連携プログラム含むフェスティバル総数：63,760人）

企画：岡村恵子、田坂博子、多田かおり、遠藤みゆき、森宗厚子、印牧雅子、松井貴子、ソニア・ルイズ・フリエル、柳生みゆき

展覧会図録

『第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来』（公式パンフレット）

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2017
Multiple Future

執筆者：リン・ルー、中島那奈子、山田亜樹、岡村恵子、田坂博子、多田かおり、遠藤みゆき、森宗厚子、木ノ下智恵子

編集：東京都写真美術館、現代企画室

発行：東京都写真美術館

世界報道写真展2016

WORLD PRESS PHOTO 2016

期間：平成28年9月3日（土）～10月23日（日） 44日間

会場：地下1階展示室

主催：世界報道写真財団／朝日新聞社

共催：東京都写真美術館

後援：オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟

協賛：キャノンマーケティングジャパン株式会社

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが、オランダのアムステルダムで開催され、今年には世界各地の6千人近いフォトグラファーが8万点を超える作品を応募した。本展では、その中から選ばれた大賞など約150点の入賞作品を紹介し、世界中でのべ350万人の来場者を集めた。今年の大賞は月明かりの下、セルビアとハンガリーの国境を越えようとする難民の男性と子どもを撮影したオーストラリアのウォーレン・リチャードソンの作品。世界を駆け巡ったニュースや現代写真が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会となった。

出品点数：約150点

入場者数：35,281人

展覧会図録

『WORLD PRESS PHOTO 2016』

編集：世界報道写真財団

発行：シュルト出版



写真新世紀東京展2016

New Cosmos of Photography Tokyo Exhibition 2016

期間：平成28年10月29日（土）～11月20日（日） 20日間
会場：地下1階展示室

主催：キヤノン株式会社
共催：東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展では応募人数25,701人（組）のなかから選ばれた優秀賞受賞者7名、佳作受賞者14名の受賞作品を展示した。また同時に前年度グランプリに選ばれた迫鉄平による新作作品展を開催した。関連イベントとして11月11日（金）には1階ホールにて「公開審査会」（審査員：アンナ・ダネマン（ロンドンフォトグラファーズギャラリー・キュレーター）、エリン・オトゥール（サンフランシスコMOMA・キュレーター）、オサム・ジェームス・中川（写真家）、さわひらき（美術家）、澤田知子（美術家）、柴田敏雄（写真家）、清水穰（写真評論家）〔敬称略〕）を開催した。

出品点数：139点
入場者数：9,129人

第17回 上野彦馬賞

九州産業大学フォトコンテスト受賞作品展

期間：平成28年11月26日（土）～12月4日（日） 8日間
会場：地下1階展示室

後援：文化庁／日本写真芸術学会／東京都写真美術館／福岡県／福岡県教育委員会／RKB毎日放送／スポーツニッポン新聞社
協賛：キヤノンマーケティングジャパン（株）／サイバーグラフィックス（株）／（株）ニコンイメージングジャパン／富士フィルムイメージングシステムズ（株）／エプソン販売（株）（順不同）

21世紀に羽ばたく若い写真家の発掘と育成を目的とし、わが国の"写真の祖"として尊敬されている「上野彦馬」の名を冠したフォトコンテストの受賞作品展。平成26年9月23日まで募集し全国から集まった作品、一般部門705点、高校生・中学生部門5,454点、ファミリー部門124点、総計6,283点のなかから、入賞した作品を紹介した。

出品点数：154点
入場者数：1,635人



APAアワード2017

第45回 公益社団法人日本広告写真家協会公募展

期間：平成29年3月4日（土）～3月19日（日）14日間
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）
共催：東京都写真美術館
後援：経済産業省／文化庁／東京都
協賛：エプソン販売株式会社／オリンパス株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社／株式会社玄光社／株式会社資生堂／株式会社ニコンイメージングジャパン／株式会社ピクトリコ／富士フイルムイメージングシステムズ株式会社／株式会社フレームマン／株式会社堀内カラー／
協力：法人賛助会員各社

公益社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2017」の入賞・入選作品を一堂に展示した。
広告作品部門は2015年1月1日から2016年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では、「美・HAPPY」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品展示した

出品点数：広告作品部門276点 写真作品部門193点
入場者数：3,810人

展覧会図録

『年鑑 日本の広告写真2017』
Advertising Photography in Japan 2017
監修：公益社団法人日本広告写真家協会
編集・発行：玄光社

[併設] 第八回「全国学校図工・美術写真公募展」

主催：公益社団法人日本広告写真家協会（APA）
共催：全国造形教育連盟、東京都写真美術館
後援：文部科学省、東京都教育委員会、（財）教育美術振興会、（財）美育文化協会、公益社団法人日本写真協会
協賛：一般社団法人日本写真文化協会、学校法人池田学園 東京服飾専門学校、エプソン販売（株）、オリンパス（株）、キヤノンマーケティングジャパン（株）、（株）ニコン、（株）ニコンイメージングジャパン、富士フイルムイメージングシステムズ（株）、リコーイメージング（株）
協力：法人賛助会員各社



フォトジャーナリスト 長倉洋海の眼 地を這い、未来へ駆ける Eyes of photojournalist, Hiromi Nagakura – crawl and run towards the future

期間：平成29年3月25日（土）～5月14日（日）6日間（平成29年3月31日までの開館日数）
会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス
共催：東京都写真美術館
後援：公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会
協賛：キヤノンマーケティング株式会社

世界の紛争地や辺境の地を旅し、そこに生きる人間そのものの姿を捉えた37年間のドキュメント。長倉洋海は、氾濫する情報や経済・効率優先の風潮に流されず、現場で感じた大切なものを伝えるために、写真を撮り続けてきた。「どんな時代であろうと人と出会い、人を見つめることでしか次の時代も新たな世界も見えてこない」。長倉洋海の写真はそう私たちに語りかける。本展は代表作から近作まで「激動の世界」で捉えた作品169点を展示する。

出品点数：169点
入場者数：2,130人（平成29年3月31日現在）



(参考) 大規模改修中の誘致展

写真公募展第41回 2016 JPS日本写真家協会展

2016 The 41nd Exhibition of The JPS

期間：平成28年6月11日（土）～6月26日（日）
会場：東京都美術館

後援：文化庁／東京都／東京都写真美術館 ほか
入場者数：5,054人

スクールプログラム

学校の児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習ができるように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動、教職員の研修と連携したスクールプログラムを実施している。制作と作品鑑賞の両方を体験できることが、当館のスクールプログラムの特色である。今年度は、改修工事による休館中（平成28年4月～8月）は、学校へ出張して授業を行うアウトリーチ形式でプログラムを実施し、リニューアル・オープン後（平成28年9月～）は当館に来館した学校に対してプログラムを実施した。各学校の状況や授業内容を担当の先生と細かく相談しながら、授業内容を組み立て、濃密な授業を実現した。

また、東京都図画工作研究会、東京都中学美術研究会などの学校教員による研究会および都内美術館と共同で、美術館と学校の連携授業について研究を行い、対話による作品鑑賞の研究授業や教員研修会をおこなった。

実施回数：47回
参加人数：1,415人

スクールプログラム内容

A. 暗室体験—フォトグラム（実施時期：平成28年9月～）

フォトグラム（フォトジェニック・ドローイング）は様々な物体の影を、印画紙へ直接写し取る写真方式のこと。本プログラムでは、各自が持参した身の回りの日用品（布や紙、ガラスやプラスチックなど）を印画紙の上に並べて、暗室で感光、現像・停止・定着の作業を行い作品を制作する。カメラに頼らない自由な造形活動により、もののかたちの多様さを実感しながら写真ならではの光と影による表現をおこない、さらにモノクロ銀塩写真の暗室作業プロセスも体験できる。

B. 暗室体験—デジタルカメラの画像から白黒写真をプリントする（実施時期：平成28年9月～）

各自がデジタルカメラで撮影した写真画像から、インクジェットプリンターによって当館であらかじめデジタルネガシートを準備。それを用いて、暗室で昔ながらの白黒写真現像を手作り体験する。学校側での事前準備として、デジタルカメラでの写真撮影、簡単な画像データ編集等の用意が必要となる。フィルムカメラ（モノクロネガフィルム）を持参して現像体験を行うことも可能。

C. 青写真 — 太陽の光で影を写しとる

（実施時期：平成28年6～7月）

青写真（サイアノタイプ）は太陽の光で印画できる写真技法で、その名のとおり深い青色のプリントが特徴。暗室を必要とせず、紙や布に薬品を塗ることで印画紙を手作りできる。プラスチックなど透過性のある素材、植物など自然のモチーフを写しとり、フォトグラムの制作を屋外で行う。ただし、太陽光で露光するため、天気により露光時間が異なる。

D. 手作りアニメーション体験—驚き盤（実施時期：通年）

驚き盤（フェナキスチスコープ）は、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組み。このプログラムでは、驚き盤に各自が思い思いの絵を描き、それを鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを学べるとともに、友達との関わりをもつことができる。

E. 手作りアニメーション体験—コマ撮りアニメーション

（実施時期：通年）

アニメーションならではの映像表現の仕組みを知り、その楽しさを発見し、動かないものに命を与えるアニメーションの魅力を実験的に知ることができる。このプログラムでは、パソコンとアニメーション撮影用のソフトウェアを用いて、テーブル上の様々なモチーフをコマ撮り撮影し、静止画がアニメーションとなる仕組みやモチーフの動かし方による効果の違いを、グループによる動画制作を体験しながら理解することができる。

F. 作品鑑賞体験—対話しながら作品を見てみよう

（実施時期：通年）

展示室の作品や所蔵作品のスライドなどを、じっくり鑑賞し参加者全員で対話を行う。

参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合い、お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づけなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができる。対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力など様々な力をはぐくむきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動が行える。

平成28年度 スクールプログラム実績

	年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	6月17日(金)	10:40-15:20	港区立白金の丘小学校	6年生	図画工作	56	同校	コマ撮りアニメーション
2	6月20日(月)	10:35-12:10	港区立御田小学校	5年生	図画工作	47	同校	驚き盤
3	6月21日(火)	10:45-12:20	品川区立浅間台小学校	5年生	図画工作	23	同校	驚き盤
4	6月24日(金)	4:20-16:20	東京女学館小学校	4,5,6年生	絵画クラブ	21	同校	青写真
5	6月27日(月)	10:40-12:15	港区立南山小学校	5年生	図画工作	21	同校	コマ撮りアニメーション
6	6月30日(木)	10:35-12:10	小金井市立前原小学校	5年生	図画工作	38	同校	青写真
7	7月 6日(水)	10:35-12:10	小金井市立前原小学校	5年生	図画工作	38	同校	青写真
8	7月 8日(金)	13:35-15:10	渋谷区立広尾小学校	5年生	図画工作	39	同校	コマ撮りアニメーション
9	7月11日(月)	10:45-12:20 13:40-15:15	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図画工作	60	同校	対話による作品鑑賞
10	7月12日(月)	10:45-12:20	多摩市立聖ヶ丘小学校	4年生	図画工作	34	同校	対話による作品鑑賞
11	7月15日(金)	10:05-12:30	目黒区立向原小学校	3年生	図画工作	34	同校	青写真
12	7月19日(火)	10:40-12:15	渋谷区立常盤松小学校	5年生	図画工作	14	同校	青写真
13	7月29日(金)	13:30-16:30	東京都歴史文化財団主催 ティーチャーズデー	小・中・高等学校 教員	研修	22	東京都美術館 スタジオ	コマ撮りアニメーション、対話による作品鑑賞
14	8月 1日(月)	13:30-16:45	品川区立小学校 図工部会研修会	小学校図工教員	図画工作	22	品川区立浅間台小学校	対話による作品鑑賞
15	9月22日(木)	14:00-15:00	東京都図画工作研究会 美術館連携局	教員	研修	7	当館スタジオ	フォトグラム
16	9月30日(金)	17:30-18:20	立教大学	大学生	授業等	48	当館展示室	展覧会解説(杉本博司展)
17	10月12日(水)	14:00-15:30	帝京科学大学 看護学科	大学生	授業等	13	当館スタジオ	対話による作品鑑賞についてのレクチャーと体験、 杉本博司展自由見学
18	10月15日(土)	15:00-16:00	武蔵大学	大学生	授業等	31	当館スタジオ	杉本博司展レクチャー
19	10月16日(日)	10:00-12:00	写真表現大学	大学生	授業等	18	当館スタジオ	杉本博司展レクチャー
20	10月21日(金)	10:00-11:50	港区立白金の丘小学校	6年生	図画工作	56	当館スタジオ、学習室、 展示室	驚き盤と対話による作品鑑賞(収蔵作品スライド)、 杉本博司展自由見学
21	10月25日(火)	11:05-12:30 13:35-14:55	目黒区立駒場小学校	4年生	図画工作	60	同校	対話による作品鑑賞
22	10月30日(日)	13:30-16:30	公立高校定時制通信制 芸術祭展示部門生徒研修会	高校生	部活動	20	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、対話による作品鑑賞(収蔵作品スライド)、 杉本博司展自由見学
23	11月 4日(金)	10:00-15:30	British School in Tokyo	10年生(高校1年)	ART	16	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガによる)、 展覧会自由鑑賞
24	11月 9日(水)	14:30-17:00	中野区図工部会	図工教員	教員研修	14	当館スタジオ、展示室	コマ撮りアニメーション、驚き盤、杉本博司展自由見学
25	11月18日(金)	10:00-12:00	日本大学 通信教育部	大学生(通信)	博物館学	10	当館スタジオ	概要説明、学芸員の業務について
26	11月25日(金)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	5年生	図画工作	58	当館スタジオ、展示室	フォトグラムと対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
27	11月29日(火)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	3年生	図画工作	64	当館スタジオ、展示室	驚き盤と対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
28	12月 2日(金)	10:00-12:00	杉並区立東田中学校	中学1,2,3年生	通級学級	16	当館スタジオ、展示室	コマ撮りアニメーション、対話による作品鑑賞 (TOPコレクション展)
29	12月 6日(火)	10:00-11:30	目黒区立向原小学校	3年生	図画工作	33	当館スタジオ、展示室	対話による鑑賞(TOPコレクション展)、驚き盤
30	12月 8日(木)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	4年生	図画工作	54	当館スタジオ、展示室	コマ撮りアニメーション、 対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
31	12月10日(土)	14:30-16:30	女子聖学院中学校	中学生	写真部	7	当館スタジオ、展示室	対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
32	12月13日(火)	10:00-12:00	江戸川区立第三松江小学校	4年生	図画工作	82	当館スタジオ、展示室	驚き盤、対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
33	12月14日(水)	10:00-12:00	筑波大付属駒場中・高等学校	中学生	美術(総合)	20	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
34	12月15日(木)	10:00-12:00	渋谷区立加計塚小学校	6年生	図画工作	55	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
35	12月16日(金)	10:00-14:00	港区立御田小学校	4年生	図画工作	66	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
36	1月13日(金)	13:30-15:50	明治学院高校	3年生	進路 決定者	11	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガによる)、 対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
37	1月13日(金)	16:00-17:00	明治学院高校	1,2年生	写真部	9	当館スタジオ、展示室	展覧会解説(TOPコレクション展)
38	1月17日(火)	13:45-14:45	港区立南山小学校	5年生	図画工作	12	当館スタジオ、展示室	対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
39	1月19日(木)	10:00-11:30	渋谷区立常盤松小学校	5年生	図画工作	13	当館スタジオ、展示室	対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
40	1月20日(金)	10:00-11:50	渋谷区立広尾小学校	5年生	図画工作	35	当館スタジオ、展示室	フォトグラム、対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
41	1月21日(土)	14:30-18:00	都立葛飾野高校	1,2,3年生	美術部	7	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガによる)、 対話による作品鑑賞(TOPコレクション展)
42	1月21日(土)	16:30-17:30	北海道大学岩見沢校	大学生	授業等	11	当館展示室	展覧会鑑賞と解説(TOPコレクション展)
43	1月26日(木)	14:00-15:30	目黒区立大島中学校	1年	職場見学	10	当館スタジオ、展示室	概要説明、学芸員の業務について、 展示の方法について(TOPコレクション展)
44	1月29日(日)	10:50-12:30	獨協埼玉中学高等学校	中学1,2,3年生	美術部	12	当館スタジオ、展示室	展覧会解説(TOPコレクション展)
45	3月14日(火)	13:00-16:30	明治学院高校	1,2,3年生	写真部	10	当館スタジオ、展示室	モノクロ銀塩プリント(デジタルネガによる)、 展覧会解説(山崎博展)
						合計	1,347人	

学校団体等との連携

	年月日	時間	団体名	対象	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容
1	7月25日(月)	9:30-16:45	東京都中学美術教員研修会 &美術館共催夏期研修会 「美術館を活用した教育研修」	中学美術教員	教員研修	49	東京国立近代美術館	国立近代美術館のコレクションを活用した対話による鑑賞の 研修 *東京都中学美術研究会、東京国立近代美術館、国立 西洋美術館、東京都美術館、三井記念美術館との連携研修
2	12月9日(金)	10:00-11:30	東京都図画工作研究会 西多摩大会	福生市立 福生第一小学校 4年2組	研究授業	19	福生市立福生第一小学校	対話による作品鑑賞(収蔵作品スライド) *東京都図画工作研究会、東京国立近代美術館、東京国立 近代美術館工芸館、国立西洋美術館、東京都現代美術館、 東京都美術館との連携研究
						合計	68人	

ワークショップ/体験型プログラム

写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるようなプログラムを行っています。子供から大人まで、また初心者から上級者まで幅広い層を対象に、制作体験のプログラムや対話をしながら作品を鑑賞するプログラムなどさまざまな切り口のプログラムを実施した。

テーマ	講師	開催日	会場	参加人数	参加費
デジタル画像から作る青写真ワークショップ(Aコース)	当館スタッフ	2016年6月18日(土)	東京都美術館スタジオ	10名	一般3,000円 学生(中学生以上)2,000円 小学生1,000円
デジタル画像から作る青写真ワークショップ(Bコース)	当館スタッフ	2016年6月19日(日)	東京都美術館スタジオ	11名	一般3,000円 学生(中学生以上)2,000円 小学生1,000円
夏休み子供ワークショップ「時間のアニメーションに挑戦！」(Aコース)	永岡大輔(美術作家)	2016年7月23日(土)	東京都美術館スタジオ	14名	小学生1,500円
夏休み子供ワークショップ「時間のアニメーションに挑戦！」(Bコース)	永岡大輔(美術作家)	2016年7月24日(日)	東京都美術館スタジオ	14名	小学生1,500円
プレオープン・イベント：クロマキーランド東京記念撮影	当館スタッフ	2016年8月20日(土)	恵比寿ガーデンプレイス・ガラススクエア地下1階	100名	無料
プレオープン・イベント：クロマキーランド東京記念撮影	当館スタッフ	2016年8月21日(日)	恵比寿ガーデンプレイス・ガラススクエア地下1階	105名	無料
オープンワークショップ：手作りアニメーション体験	当館スタッフ	2016年9月3日(土)	東京都写真美術館スタジオ	69名	無料
オープンワークショップ：手作りアニメーション体験	当館スタッフ	2016年9月4日(日)	東京都写真美術館スタジオ	70名	無料
フォトドキュメンタリーワークショップ2016	Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝日新聞社映像報道部)	2016年9月17日(土)、9月18日(日)、9月19日(月/祝)	東京都写真美術館スタジオ	19名	一般20,000円
モノクロ銀塩プリントワークショップ(A/Bコース)	当館スタッフ	2016年10月22日(土)	東京都写真美術館スタジオ	22名	銀塩ネガフィルム使用：一般4,000円 学生3,000円 中学生2,000円 デジタル画像使用：一般5,000円 学生4,000円 中学生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
モノクロ銀塩プリントワークショップ(C/Dコース)	当館スタッフ	2016年10月23日(日)	東京都写真美術館スタジオ	19名	銀塩ネガフィルム使用：一般4,000円 学生3,000円 中学生2,000円 デジタル画像使用：一般5,000円 学生4,000円 中学生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
TOPコレクション展関連 対話による鑑賞プログラム(Aコース)	当館スタッフ	2016年12月4日(日)	東京都写真美術館スタジオ、3階展示室	7名	小学生500円
TOPコレクション展関連 対話による鑑賞プログラム(Bコース)	当館スタッフ	2017年1月15日(日)	東京都写真美術館スタジオ、3階展示室	9名	小学生500円
モノクロ銀塩プリントワークショップ(A/Bコース)	当館スタッフ	2017年1月28日(土)	東京都写真美術館スタジオ	23名	銀塩ネガフィルム使用：一般4,000円 学生3,000円 中学生2,000円 デジタル画像使用：一般5,000円 学生4,000円 中学生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
モノクロ銀塩プリントワークショップ(C/Dコース)	当館スタッフ	2017年1月29日(日)	東京都写真美術館スタジオ	11名	銀塩ネガフィルム使用：一般4,000円 学生3,000円 中学生2,000円 デジタル画像使用：一般5,000円 学生4,000円 中学生3,000円 (デジタルネガフィルム代含む)
高校生限定 暗室でモノクロ写真プリントワークショップ(Aコース)	当館スタッフ	2017年3月19日(日)	東京都写真美術館スタジオ	6名	高校生1,500円
高校生限定 暗室でモノクロ写真プリントワークショップ(Bコース)	当館スタッフ	2017年3月20日(月/祝)	東京都写真美術館スタジオ	5名	高校生1,500円
合計 21回 514名					

講演会等

展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
リニューアル・オープン / 総合開館20周年 記念事業 杉本博司 ロスト・ヒューマン	連続対談	平成28年9月3日(土)	浅田彰(批評家、現代思想) × 杉本博司(展示出品作家) 都築響一(写真家、編集者) × 杉本博司(展示出品作家)	413	
総合開館20周年 記念事業 東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13	映画『羅生門』上映	平成28年10月15日(土)～平成28年10月21日(金)	主催：YEBISU GARDEN CINEMA	345	
	映画『杉本博司 作 朗読能「巣鴨塚」』上映	平成28年10月29日(土)	主催・制作：公益財団法人小田原文化財団 作・構成・出演：杉本博司 作詞：亀井広忠	140	
	作家とゲストによる対談		平成28年11月26日(土)	元田敬三 × 石川竜一(写真家)	64
			平成28年11月27日(日)	小島康敬 × 小林美香(東京国立近代美術館客員研究員)	50
			平成28年12月4日(日)	田代一倫 × 倉石信乃(明治大学教授)	48
		平成28年12月10日(土)	中藤毅彦 × 田原桂一(写真家)	58	
総合開館20周年記念事業 / 収蔵映像展 アビチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち	シンポジウム「映像の不可視性をめぐって」	平成28年12月11日(日)	佐藤信太郎 × 大西みつぐ(写真家)	92	
		平成28年12月23日(金・祝)	野村恵子 × 石川直樹(写真家)	94	
		平成28年12月18日(日)	出演：アビチャップン・ウィーラセタクン(出品作家)、四方田犬彦(映画研究者)、相澤虎之助(映画監督/脚本家)	306	
山崎博 計画と偶然	対談「山崎博をめぐって」	平成28年12月13日(火)～平成29年1月5日(木) ※12月19日(月)、12月26日(月)、12月29日(木)～2017年1月1日(日・祝)は休館日	主催：東京都、東京都写真美術館、産経新聞社	822	
		平成29年3月25日(土)	北野謙(写真家) × 石田哲朗(担当学芸員)	30	
夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編	初期写真 国際シンポジウム「幕末」	平成29年3月26日(日)	登壇者：高橋則英(日本大学芸術学部教授)、クリスチャン・ボラック(明治大学政治経済学部客員教授)、セバステアーン・ドブソン(初期写真研究者)、ルーク・ガートラン(セント・アンドリュース大学准教授)、范如苑(国立台湾大学映画媒体設計研究所助理教授)、フィリップ・ダレス(チューリッヒ大学研究員)	190	

展示会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来	展示関連パフォーマンス 笹本晃「デリケート・サイクル」パフォーマンス	平成29年2月10日(金)、 11日(土・祝)、12日(日)	笹本晃(展示出品作家)	120
	展示関連パフォーマンス ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノの振付による パフォーマンスチーム11名/ライブ音響:ダニエル・ヤナシュ	平成29年2月10日(金)、 11日(土・祝)、12日(日)	ガブリエラ・マンガノ&シルヴァーナ・マンガノの振付による パフォーマンスチーム11名/ライブ音響:ダニエル・ヤナシュ	390
	ラウンジトーク	平成29年2月10日(金)	レイ・レイ(展示出品作家)	30
		平成29年2月11日(土・祝)	豊嶋康子(展示出品作家)	55
		平成29年2月12日(日)	ロバート・ノース&アントワネット・デ・ヨング(展示出品作家)	83
		平成29年2月14日(火)	[地域連携プログラム LIBRAIRIE6] 荒木博志、岡田邦雄、佐々木聖	25
		平成29年2月19日(日)	峯利子(展示出品作家)	50
		平成29年2月21日(火)	金氏徹平(展示出品作家)、木ノ下智恵子(キュレーター)	45
		平成29年2月24日(金)	澤田知子(展示出品作家)	54
		平成29年2月25日(土)	森村泰昌(展示出品作家)	102
	平成29年2月26日(日)	石川卓磨(展示出品作家)	57	
	上映関連ゲストトーク 1. フィオナ・タン 《歴史の未来》ジャパンプレミア	平成29年2月14日(火)	山田裕理(ゲスト)、岡村恵子(プログラマー/恵比寿映像祭ディレクター)	119
	上映関連ゲストトーク 2. 相互接続への夢— 《ドリームズ・リワイヤード》ジャパンプレミア	平成29年2月26日(日)	マヌ・ルクシュ(出品作家)	86
	上映関連ゲストトーク 4. 「日本零年」vol.1 《イリュミネーション》—長谷川徳名特集	平成29年2月25日(土)	長谷川徳名(監督)	137
	上映関連ゲストトーク 5. 「日本零年」vol.2 《DUAL CITY》—長谷川徳名特集	平成29年2月25日(土)	長谷川徳名(監督)	63
	上映関連ゲストトーク 6. ガレキあるいはSF	平成29年2月12日(日) ・16日(木)	鈴木了二 / 三宅唱 / 降矢聡	275
	上映関連ゲストトーク 7. ヨーロッパからの実験映 画:「製作年なし。」	平成29年2月23日(木)	リン・ルー(プログラマー)	50
	上映関連トーク 8. ダンスのマルチプルな未来	平成29年2月11日(土・祝)	中島那奈子(プログラマー)	60
	上映関連トーク 9. DigiCon6 ASIA—ショートムー ビーから見えてくるマルチプルなアジア	平成29年2月24日(金)	山田亜樹(プログラマー) / 矩田真武(出品作家)	22
	上映関連トーク 12. 《バンコクナイツ》スペシャル上 映&トーク	平成29年2月11日(土・祝)	富田克也(監督) / 相澤虎之助(脚本)	160
	シンポジウム A. 「マルチプルな未来へ」 Part 1: 芸術とスペキュラティブ・コモンズ	平成29年2月18日(土)	パネリスト: コルネリア・ゾルフランク(出品作家) / 久保田晃弘(多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授) / 八田真行(駿河台大学経済経営学部専任講師、国際大学GLOCOM客員研究員) モデレーター: 多田かおり(恵比寿映像祭キュレーター)	49
	シンポジウム B. 「マルチプルな未来へ」 Part 2: マージナルな映像アーカイヴィングの可能性	平成29年2月18日(土)	パネリスト: 松山ひとみ(東京国立近代美術館フィルムセンター B.D.C. プロジェクト特定研究員) / 真喜屋力(シネマ沖縄、沖縄アーカイブ研究所) / 三好大輔(アルプス・ピクチャーズ、あづみのフィルムアーカイブ代表) モデレーター: 森宗厚子(恵比寿映像祭プログラマー)	55
	シンポジウム E. [日仏会館共催企画] シネマトグラフ日本伝来—稲畑勝太郎とリュミエール	平成29年2月17日(金)	パネリスト: 小松弘(早稲田大学文学部教授) / 岡田秀則(東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員) / 上田学(日本大学他非常勤講師) / 岡 眞理子(青山学院大学、日仏会館常務理事) モデレーター: 遠藤みゆき(恵比寿映像祭アシスタント・キュレーター、東京都写真美術館学芸員)	46
レクチャー C. イヴォンヌ・レイナーをめぐる一 ポストモダンダンスと映像の間	平成29年2月19日(日)	ゲスト: 松井みどり(美術批評家) / 外山紀久子(舞踏研究者) / 武藤大祐(ダンス批評家) モデレーター: 田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター、東京都写真美術館学芸員)	82	
レクチャー D. スーザン・ソング—その思考と 生き方に学ぶ	平成29年2月26日(日)	ゲスト: 新田啓子(立教大学教授) / 菅野優香(同志社大学教授) モデレーター: 岡村恵子(恵比寿映像祭ディレクター、東京都写真美術館学芸員)	73	
ライブ・イベント I. YEBIZO ナイツ Side A: マルチプル/アナログ	平成29年2月24日(金)	リン・ルー(出品作家、コンサヴェーション・スペシャリスト) / 入手杏奈(ダンサー、振付家) / 恩田晃(作曲家、パフォーマー)	89	
ライブ・イベント II. YEBIZO ナイツ Side B: マルチプル/キカイ	平成29年2月25日(土)	恩田晃(作曲家、パフォーマー) / 山崎広太(ダンサー、振付家) / 宇治野宗輝(アーティスト)	95	
地域発信プロジェクト「YEBIZO MEETS」I 特別セ ッション 伊東豊雄(建築家) × 北川フラム(アートディ レクター)	平成29年2月11日(土・祝)	ゲスト: 伊東豊雄(建築家) / 北川フラム(アートディレクター) / 関康子(編集者)	83	
地域発信プロジェクト「YEBIZO MEETS」II 地域発 信トーク: 伊東建築塾 伊東豊雄(建築家・伊東建 築塾NPOこれからの建築を考える主宰 [恵比寿]) × アストリッド・クライン(建築家・クライン ダイサム ア ーキテツク代表 [恵比寿])	平成29年2月11日(土・祝)	ゲスト: 伊東豊雄(建築家・伊東建築塾NPOこれからの建築を考える主宰) / アストリッド・クライン(建築家・クライン ダイサム アーキテツク代表)、太田浩史(建築家) モデレーター: 石川さくみ(※)	51	
地域発信プロジェクト「YEBIZO MEETS」III リンク セッション: オーストリア大使館・オーストリア文化フ ォーラム マヌ・ルクシュ [第9回恵比寿映像祭上映 プログラム《ドリームズ・リワイヤード》出品作家] × 畠山直哉(写真家)	平成29年2月22日(水)	ゲスト: マヌ・ルクシュ(出品作家) / 畠山直哉(写真家)	36	

参加人数合計 5,294人

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
世界報道写真展2016	「人々の部」組写真1位受賞 小原一真トークイベント	平成28年9月11日(日)	小原一真	54
写真新世紀東京展2016	グランプリ選出公開審査会、表彰式	平成28年11月11日(金)	審査員：アンナ・ダネマン(英フォトグラファーズギャラリーキュレーター)、エリン・オトゥール(サンフランシスコMOMAキュレーター)、オサム・ジェームス・中川(写真家)、さわ ひらき(美術家)、澤田 知子(アーティスト)、柴田 敏雄(写真家)、清水 穰(写真評論家)	123
	ポートフォリオレビュー	平成28年11月12日(土)	レビューアー 写真新世紀2016審査員：アンナ・ダネマン、オサム・ジェームス・中川、澤田 知子、清水 穰、石田 哲朗(担当学芸員)	30
	写真レクチャー テーマ：「ヨーロッパ写真の現在、フォトグラファーズギャラリーのビジョン」	平成28年11月13日(日)	講師：アンナ・ダネマン	50
	映像レクチャー テーマ：「映像表現の可能性、さわ ひらきの仕事」	平成28年11月13日(日)	講師：さわ ひらき	30
参加人数合計 287人				

ギャラリートーク

【収蔵展・自主企画展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
リニューアル・オープン/総合開館20周年記念事業 杉本博司 ロスト・ヒューマン	平成28年9月9日(金)・23日(金)・10月8日(土)・14日(金)・20日(木)・25日(火)・28日(金)・11月3日(水・祝)・4日(木)・11日(金)・12日(土)	杉本博司(出品作家)、丹羽晴美・伊藤貴弘(担当学芸員)	651
総合開館20周年記念事業 TOPコレクション 東京・TOKYO	平成28年12月2日(金)・16日(金)・平成29年1月3日(火)・6日(金)・20日(金)	武内厚子(担当学芸員)	164
総合開館20周年記念事業 東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13	平成28年11月25日(金)・12月9日(金)・23日(金・祝)・平成29年1月13日(金)・27日(金)	藤村里美(担当学芸員)	109
総合開館20周年記念事業/収蔵映像展 アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち	平成28年12月23日(金・祝)・平成29年1月3日(火)・13日(金)・27日(金)	田坂博子(担当学芸員)	296
総合開館20周年記念事業 夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編	平成29年3月17日(金)・31日(金)	三井圭司(担当学芸員)	80
総合開館20周年記念事業 山崎博 計画と偶然	平成29年3月10日(金)・24日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	32
第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来 ①フェスティバル会場・オールアラウンドガイドツアー ——YEBIZOの全体像を掴もう [90分]	平成29年2月18日(土)・26日(日)	特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]、担当学芸員	23
第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来 ②オフサイト展示・ガイドツアー ——金氏徹平の新作に視る"マルチプル"とは? [30分]	平成29年2月11日(土・祝)・25日(土)	特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]、担当学芸員	23
第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来 ③TOPメイン会場・ガイドツアー ——東京都写真美術館会場巡りで、じっくりテーマを掘り下げる [60分]	平成29年2月16日(木)・23日(木)	特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]、担当学芸員	20
第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来 ④TOP Museum Guided Tour: English Version [60 min.]	平成29年2月19日(日)・22日(水)	特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT/エイト]、担当学芸員、ソニア・ルイズ・フリエル(第9回恵比寿映像祭インタナー)	18
参加人数合計 1,416人			

【誘致展】

外部企画・資金を導入した誘致展においても、出品作家などによる展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
世界報道写真展2016	平成28年9月7日(水)	伊藤貴弘(担当学芸員)	13
写真新世紀東京展2016	平成28年10月29日(土)	2016年度(第39回公募) 優秀賞受賞者、佳作受賞者 2015年度(第38回公募) グランプリ受賞迫氏	84
フォトジャーナリスト長倉洋海の眼 地を這い、未来へ駆ける	平成29年3月25日(土)・26日(日)	長倉洋海(出品作家)	117
参加人数合計 214人			

「あ・ら・かるちやー文化施設運営協議会」(文化施設連携事業)

1 趣旨

渋谷を中心としたJR3駅、渋谷、恵比寿、原宿を結ぶエリアには美術館、博物館、コンサートホール、テーマパーク、図書館など数多くの文化施設があり、それぞれの特徴を活かしながら多様な文化事業を展開している。そこで、各施設の利用者の利便性の向上とこのエリアの文化をエリア内外に浸透させ、社会に活力を与える一助になることを目的に、渋谷周辺の文化施設で構成する「あ・ら・かるちやー運営協議会」を、平成17年4月20日に設置した。協議会に加盟する文化施設が連携して各種事業を行うことで、従来にも増して、渋谷・恵比寿・原宿が魅力ある文化ゾーンとしての認知度を高め、文化芸術に触れる場や機会の提供の拡充を図り、人々の生活の中に文化が浸透し、地域社会に活力を与えることを狙いとしている。また、平成27年4月1日より団体名を「あ・ら・かるちやー文化施設運営協議会」に改名し、文化関連施設の運営に特化した連合体であることを強調した。

2 連携施設

計21施設 (H28年度末時点)

- ①NHKスタジオパーク
- ②トーキョーワンダーサイト渋谷
- ③Bunkamura
- ④戸栗美術館
- ⑤ギャラリーTOM
- ⑥渋谷区立松濤美術館
- ⑦太田記念美術館
- ⑧地球環境パートナーシッププラザ
- ⑨セルリアンタワー能楽堂
- ⑩白根記念渋谷区郷土博物館・文学館
- ⑪渋谷区ふれあい植物センター
- ⑫東京都立中央図書館
- ⑬エビスビール記念館
- ⑭山種美術館
- ⑮国立オリンピック記念青少年総合センター
- ⑯東京シアターオーブ
- ⑰実践女子大学 香雪記念資料館
- ⑱國學院大學博物館
- ⑲こども科学センター・ハチラボ
- ⑳コスモプラネタリウム
- ㉑東京都写真美術館

3 活動実績

a 協議会の開催

加盟施設の担当者が集まり、連携事業についての協議や情報交換を行った。連絡会会場は各館持ち回り制とし、今年度は東京都写真美術館で開催した。(実施回数：総会1回、事務局会1回)



総会の様子

b 施設見学会

各加盟施設の視察を兼ね、施設見学会を行った。今年度はリニューアル・オープン直前の東京都写真美術館の全フロアを見学し、参加者間で各施設の運営についての情報や意見を交換した。

開催日：平成28年7月1日(金)

会場：東京都写真美術館



施設見学会の様子



懇談会風景

4 広報宣伝

a さんぽ地図の印刷、配付

連携施設を紹介する「かるちやーさんぽ地図」日本語版50,000部、英語版30,000部を作成し、加盟施設および都内観光案内所にて配布。また、多言語化にも力を入れ、英語版を、外国人旅行者向けに各施設で配布した。

b ホームページの運営

東京都写真美術館のホームページのリニューアルに伴い、当協議会のホームページデザインを一新した。また、各施設のホームページ内にリンクを貼り、相互PRを行った。



ホームページ



「かるちやーさんぽ地図」日本語版・英語版

5 連携事業・イベント

a 「渋谷区く민의広場 ふるさと渋谷フェスティバル」への参加

例年参加している渋谷区主催の「ふるさと渋谷フェスティバル」には国立オリンピック記念青少年総合センターが当協議会を代表して参加した。ブース展示のほか、オープンワークショップを行った。参加者には「かるちやーさんぽ地図」を配布し、各連携施設の連携をPRした。

開催日：平成28年11月5日(土)、6日(日)

会場：代々木公園イベント会場 主催：渋谷区



ふるさと渋谷フェスティバルの様子

b イベントの共同開催

「しぶや探検!ー渋谷で日本の文化を知るー」

平成28年度文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択された「東京・渋谷から日本の文化・こころを国際発信するミュージアム連携事業」の一環として国立オリンピック記念青少年総合センターと國學院大學博物館が連携し、國學院大學博物館の企画展・特別展と連動して、日本の歴史や文化、芸術を体感する探検ワークショップを開催した。

主催：國學院大學博物館、国立オリンピック記念青少年総合センター
しぶや探検I「渋谷の神社を見てみよう!~神主とめぐる神社ツアー~」



開催日：平成28年10月29日(土)

会場：國學院大學博物館、國學院大學神殿、渋谷氷川神社、鳩森八幡神社

しぶや探検II「渋谷で出会う岡本太郎と縄文」

開催日：平成29年1月21日(土)

会場：國學院大學博物館、岡本太郎記念館、渋谷駅、NHKスタジオパーク

東京都写真美術館ボランティア

休館中、リニューアル・オープン後を通じて、ワークショップ、スクールプログラム、恵比寿映像祭の運営等で積極的に活動した。今年度は従来の制作系プログラムでの活動のほか、対話による作品鑑賞での活動が新たに加わった。それに対応できるよう、対話による作品鑑賞でのボランティア活動を内容とした研修を行い、コミュニケーションとファシリテーションのスキルの向上を図った。

1 登録者数：66名

平成27年度からの更新登録者 66名

新規登録者 0名（募集なし）

2 ボランティア活動実績

活用事業実施回数67回 1ヶ月平均 約5.5回

のべ参加者297人

（ただしボランティア研修会をのぞく。）年間一人あたり4.5回

- (1) ワークショップ・スタッフ活動 17回
- (2) スクールプログラム・スタッフ活動 30回
- (3) 「恵比寿映像祭」会場スタッフ 20回

3 研修会・連絡会

- (1) ボランティア研修会 4回

平成28年6月5日（日）対話による作品鑑賞研修会

講師：当館スタッフ

平成28年9月10日（土）暗室作業研修会

講師：当館スタッフ

平成28年11月27日（日）対話による作品鑑賞研修会その1、その2

講師：当館スタッフ

- (2) ボランティア連絡会 3回

平成28年6月5日（日）、9月10日（土）、平成29年3月11日（土）

東京都写真美術館 博物館実習

写真美術館における美術館活動と学芸員および各部署の業務を実地で研修することによって、学芸員養成のための実習とした。平成28年度はリニューアルオープン前の休館中に受け入れを行い、出前ワークショップでの実践活動、外部収蔵庫の見学などをおこなった。

- (1) 受入日程：平成28年7月20日（水）～ 8月4日（木）のうちの11日間

- (2) 受入人数：4名

- (3) 受入大学：学習院大学、金沢美術工芸大学、昭和音楽大学、女子美術大学

収集の基本方針

1989（平成元）年2月3日（昭和63年度）策定

写真作品（オリジナル・プリント）を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点作家（17名、五十音順）秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1.出版物（写真集、専門書、雑誌）については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料（図録、チケット等）を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

[作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上

内訳：写真作品（国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上）

- 2.平成28年3月現在収集点数 33,393点

内訳：国内写真作品21,671点 海外写真作品5,633点 映像作品資料2,367点 写真資料3,722点

写真作品収集の新指針 2006（平成18）年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会（自主展、収蔵展）で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点作家（21人、五十音順）荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博

作品収集実績

平成28年度収集点数：615点

【内訳】国内写真作品：602点 海外写真作品：1点 映像作品資料：9点 写真資料：3点

東京都写真美術館コレクション点数：34,008点

【内訳】国内写真作品：22,273点 海外写真作品：5634点 映像作品資料：2,376点 写真資料：3,725点

【東京都購入作品】H28実践

作家名	作品名	技法	サイズ(mm)	点数	制作年	備考
荒木 経惟	〈センチメンタルな旅〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	233×355	109	1971	重点収集作家 平成29年度展覧会出品予定作品
石川 真生	〈熱き日々 in オキナワ〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	279×356	20	1975-1977	平成32年度展覧会出品予定作品
今井 智己	〈真昼〉、〈光と重力〉、〈Semicircle Law〉より	発色現像方式印画	635×800	11	1999-2013	平成29年度展覧会出品予定作品
郡山 総一郎	〈Apartments in Tokyo〉より	発色現像方式印画	356×432	8	2013-2014	平成29年度展覧会出品予定作品
小島 康敬	〈Tokyo〉	インクジェット・プリント	838×1016	4	2013	平成28年度展覧会出品作品
佐藤 信太郎	〈東京 天空樹〉より	インクジェット・プリント	550×1354	5	2009-2016	平成28年度展覧会出品作品
杉本 博司	〈廃墟劇場〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	508×610	3	2013, 2015	平成28年度展覧会関連作品
高橋 恭司	〈ザ・マッド・ブルーム・オブ・ライフ〉より	発色現像方式印画	250×300	7	1991-1993	平成29年度展覧会出品予定作品
田代 一倫	《2016年2月9日 世田谷区南烏山》他	発色現像方式印画	428×286	20	2015-2016	平成28年度展覧会出品作品
中藤 毅彦	〈STREET RAMBLER〉より	インクジェット・プリント	333×500	30	2011-2016	平成28年度展覧会出品作品
野村 恵子	〈A Day in The Life〉より	発色現像方式印画	508×610	22	2007-2016	平成28年度展覧会出品作品
浜田 涼	〈とぼとぼと〉より	発色現像方式印画	329×483	13	2016	平成29年度展覧会出品予定作品
原 美樹子	〈Is As It〉他より	発色現像方式印画	356×356	7	1996-2006	平成29年度展覧会出品予定作品
元田 敬三	〈OPEN CITY〉、〈ツツパルな〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	508×406	27	2009-2016	平成28年度展覧会出品作品
山崎 博	〈Heliography〉 〈Observation 観測概念〉 〈水平線採集〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	210×310	28	1978	重点収集作家 平成28年度展覧会出品作品
山本 糾	〈Jardin〉より	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)		5	1982-2002	平成28年度展覧会出品作品
出光 真子	《At Yukigaya 2》 《At Santa Monica 3》 《Real? Motherhood》	16ミリフィルム 16ミリフィルム ビデオ・インスタレーション	11分10秒/ モノクロ/サウンド 15分30秒/ モノクロ/サウンド 15分30秒/ モノクロ/サウンド	3	1974-2000	平成29年度以降展覧会出品予定作品
シュウゾウ・アツチ・ガリバー	《Cinematic Illumination》	インターメディア (スライドプロジェクター用ポジフィルム80枚×18セット)		1	1968-1969	平成29年度展覧会出品予定作品
城之内 元晴	《document 6-15》	16ミリフィルム	18分/モノクロ/サイレント	1	1961	H29年度展覧会出品予定作品

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法	サイズ(mm)	点数	制作年	備考
松崎晋二	〈台湾国之物〉 〈小笠原島部〉より、他	鶏卵紙	65×105	45	1874-1875	平成28年度展覧会出品作品
アンナ・アトキンス	《Gymnogramma calomelanos (Jamaica)》	サイアナタイプ	345×240	1	1851	平成30年度展覧会出品予定作品 サイアナタイプのフォトグラム
ウィリアム・キンムンド・バルトン	『Exhibition of Foreign Photographs/ A Catalogue of the Exhibition of the Photographic Society of Japan』	印刷	186×160 22ページ	1	1893	平成30年度展覧会出品予定資料 明治26(1893)年5月、日本で最初に開催された「外国写真展覧会」の目録

*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

【寄贈】

作家名	作品名	技法	サイズ (mm)	点数	制作年f	備考
大森 克己	〈サルサ・ガムテープ〉より	発色現像方式印刷	160×239	1	1998	作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
郡山 総一郎	〈Apartments in Tokyo〉より	発色現像方式印刷		3	2013	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
小島 康敬	《Tokyo》	発色現像方式印刷	838×1016	10	2013	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
佐藤 信太郎	〈東京 天空樹〉より	インクジェット・プリント	550×2300	6	2009-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
杉本 博司	〈廃墟劇場〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	508×610	2	2015	寄託に伴う寄贈、SUGIMOTO STUDIOより、平成28年度展覧会関連作品
高橋 恭司	〈ザ・マッド・ブルーム・オブ・ライフ〉より	発色現像方式印刷	300×250	3	1991-1993	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
田代 一倫	《2015年11月12日 荒川区南千住》他	発色現像方式印刷	428×286	22	2015-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
中藤 毅彦	〈STREET RAMBLER〉より	インクジェット・プリント	420×594	23	2011-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
野村 恵子	〈A Day in The Life〉より	発色現像方式印刷	508×610	13	2007-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
浜田 涼	〈とぼとぼと〉より	発色現像方式印刷	329×483	6	2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
原 美樹子	〈うつろの製法〉〈Agnus Dei〉 〈Primary Speaking〉より	発色現像方式印刷	356×356	3	1998-2001	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
元田 敬三	〈OPEN CITY〉、〈ツッパルな〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	406×508	22	2012-2016	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
山崎 博	〈桜花園〉〈Observation観測概念〉 〈等倍率による・地図〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	254×305	58	2001	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品 重点収集作家
山本 糾	〈Jardin〉より	拡散転写方式印刷	190×241	49	2002	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品
井手 傳次郎	『写真画集 長崎』	オフセット印刷	370×270×50	1	1927	ご遺族より、井手 傳次郎が響写真館として制作した私家版で非売品の写真集。フォトグラビュールによるプリントが貼付されているページもある。
作家不詳	『読売焼付版ニュース』	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	270×215×30	1	c.1942-1944	ご遺族より、ゼラチン・シルバー・プリント103枚、カラーグラビア印刷18枚 計121枚含むアルバム 写真資料
出光 真子	《直前の過去》	2チャンネル・ビデオ・インスタレーション	10分8秒 (1ループ) /モノクロ /サウンド	1	2005	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度以降展覧会出品予定作品
シュウゾウ・アツチ・ガリバー	《Watch》	シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムより変換)	20分 [4:07-4:27] /モノクロ /サイレント	1	1966	購入時寄贈、作家ご本人より、平成29年度展覧会出品予定作品
城之内 元晴	《新宿ステーション》	16ミリフィルム	16分/モノクロ /サウンド	1	1974	購入時寄贈、作家ご遺族より、第3回恵比寿映像祭作品
山崎 博	《Heliography》	16ミリフィルム	5分/カラー /サウンド	1	1979	購入時寄贈、作家ご本人より、平成28年度展覧会出品作品 重点収集作家

【寄託】

作家名	作品名	技法	サイズ	点数	制作年	備考
杉本 博司	〈廃墟劇場〉他	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)		17	2015	平成28年度展覧会出品作品、SUGIMOTO STUDIOより

平成28年度新収蔵作品の紹介

東京都購入案件



杉本博司〈廃墟劇場〉より 《ホール37、パレ・ド・トーキョー》
2013年 ゼラチン・シルバー・プリント



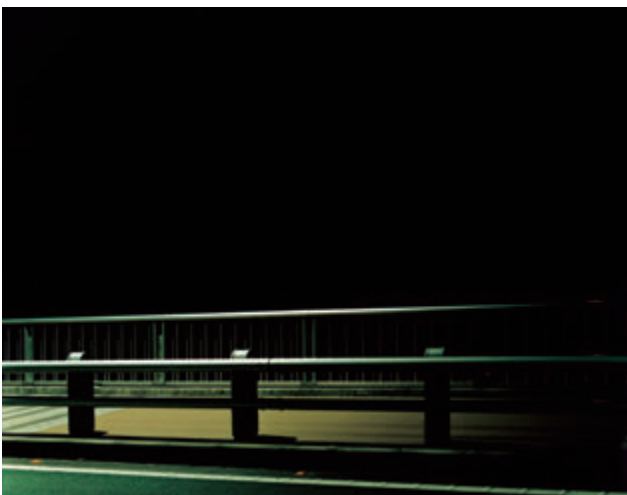
郡山総一郎 〈Apartments in Tokyo〉より 2013~14年 発色現像方式印画



山本糾 〈Jardin〉より 《Jardin 9》 2002年 ゼラチン・シルバー・プリント



高橋恭司 〈ザ・マッド・ブルーム・オブ・ライフ〉より
《ニューメキシコ》 1991~93年 発色現像方式印画



今井智己 〈真昼〉より 《Untitled》 2001年 発色現像方式印画



石川真生 〈熱き日々 in オキナワ〉より 1975~77年 ゼラチン・シルバー・プリント



田代一倫 《2016年6月 豊島区北大塚》
2016年 発色現像方式印画



中藤毅彦 〈STREET RAMBLER〉より 2015年 インクジェット・プリント



小島康敬 《Tokyo》 2013年 インクジェット・プリント



野村恵子 〈A Day in the Life〉より 2012年 発色現像方式印画



佐藤信太郎 〈東京|天空樹〉より 《2016年5月15日 台東区浅草》
2013年 インクジェット・プリント

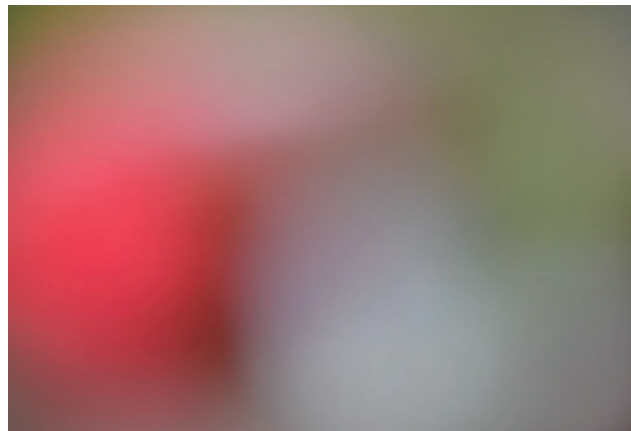


元田敏三 〈OPEN CITY〉より 2012年 ゼラチン・シルバー・プリント

平成 28 年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



荒木経惟 〈センチメンタルな旅〉より 1971年 ゼラチン・シルバー・プリント



浜田涼 〈とぼとぼ〉より 《201609明るい部屋》 2016年 発色現像方式印画



原美樹子 〈Is As It〉より 1996年 発色現像方式印画



山崎博 〈OBSERVATION観測概念〉より 1974年 ゼラチン・シルバー・プリント



出光真子 《At Yukigaya 2》 1974年 16ミリフィルム



シュウゾウ・アツチ・ガリバー 《Cinematic Illumination》
1968～69年 インターメディア



城之内元晴 《document 6・15》 1961年 16ミリフィルム

平成 28 年度新収蔵作品の紹介
東京都写真美術館購入案件



松崎晋二 〈台湾国之物〉より 《台湾石門口右側之山》
1874年 鶏卵紙



Anna Atkins 《ギンダ (ジャマイカ)》
1851~54年頃 サイアノタイプ



William Kinninmond Burton 『外国写真展覧会 目録』
1893年 その他の技法

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「計画と偶然—山崎博の方法と表現」『山崎博 計画と偶然』展図録、武蔵野美術大学出版局、2017年、pp.169-182

岡村恵子

「マルチプルな未来」『第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来』パンフレット、東京都写真美術館、2017年、pp.8-9

武内厚子

「東京・TOKYO 数え切れないほどのイメージのなかから」『TOPコレクション 東京・TOKYO』展図録、Case Publishing、pp.134-139

田坂博子

「光と亡霊」、「アピチャップン・ウィーラセタクンインタビュー（聞き手・構成=田坂博子）」、総合開館20周年記念『アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち』、河出書房新社、2016年、pp.105-109、pp.110-116（英pp.162-167、pp.168-174）

丹羽晴美

「ロスト・ヒューマン：21世紀の黙示録」『杉本博司：ロスト・ヒューマン』図録、東京都写真美術館、2016年、pp.184-191

藤村里美

「東京の風景」『東京・TOKYO 日本の新進作家 vol.13』展図録、Case Publishing、2016年、pp.8-11

三井圭司

「初期写真の鑑賞について」、『日本写真開拓史』「夜明けまえ知られざる日本写真開拓史 総集編」展図録、山川出版社、pp.234-237
「松崎晋二『写客の心得』解題」、『日本写真開拓史』「夜明けまえ知られざる日本写真開拓史 総集編」展図録、山川出版社、pp.244-249

柳生みゆき、岡村恵子、田坂博子、多田かおり、遠藤みゆき、森森厚子、印牧雅子、松井貴子、ソニア・ルイズ・フリエル『第9回恵比寿映像祭、マルチプルな未来』パンフレット、東京都写真美術館、2017年

【寄稿】

石田哲朗

「全館改修におけるLEDスポットライトの選定と導入」一般社団法人日本写真学会誌80巻1号、2017年、pp.15-17

遠藤みゆき

「中島待乳の幻燈製造（研究発表〈要約〉）」『近代画説 25』明治美術学会、三好企画、2016年、pp.192-194

岡村恵子

「山城知佳子」（インタビュー、構成）『美術手帖』2016年11月号（1044号）、pp.161-175

笠原美智子

「大塚千野 過去への飛翔と新たな記憶」『美術の窓』2016年6月号（第35巻第6号通巻413号）、生活の共社、p.44

“Tomoko Kikuchi”, *I and I*, Tomoko Kikuchi, L'Artiere, Italy, 2016, n.p.

「これはいったいなんなのか ジョージア・オキーフ アルフレッド・スティーグリッツ」『日経回廊8パートナー考』日本経済新聞社、2016年、pp.24-29

「東京都写真美術館リニューアル・オープン」『公明新聞』2016年8月24日

「東京都写真美術館リニューアル・オープン」『新美術新聞』2016年9月1日

「その瞬間 世界が見える 世界報道写真展2016」『朝日新聞』2016年9月2日夕刊

“Contemporary Japanese Photography”, “Seven Japanese Rooms, Fotografia contemporanea dal Giappone” exhibition catalogue, Fondazione Carispezia, La Spezia, December 16, 2016 to March 17, 2017, Skira editore, Milan, pp.12-16

「藏真墨の『Men are Beautiful』」藏真墨『Men are Beautiful』Urgent Press、2016年、np

関次和子

「黒岩保美 《D51 448 山手貨物線（恵比寿）》1953年4月17日」『一個人』KKベストセラーズ、2016年4月10日発売号、pp.8-10

「『動物への愛 かぎりなく』田中光常さんを偲んで」『アサヒカメラ』朝日新聞出版、2016年5月号、p.220

“My Expectations for the Fifth Singapore International Photography Festival”, The 5th Singapore International Photography Festival Brochure

「星野道夫の残したもの」『アサヒカメラ』朝日新聞出版、2016年9月号、p.127

武内厚子

「写真とクルマ 第1部 古今東西の名作クルマ写真篇 #5 TOKYOとクルマ 現代の日本写真界を象徴するホンマタカシと本城直季は、クルマのある大都市、東京をどのように捉えたか？」『ENGINE（エンジン）』2016年7月号第190号、新潮社、pp.64-65

田坂博子

“Visualizing the Unconscious,” a brochure for TEN PLACES IN TOKYO, an exhibition by Sutthirat Supaparinya at Gallery VER, Bangkok [Aug.18 - Sept.24, 2016], Aug.18, 2016, pp.2-3

「美術館における映像資料の保存フォーマットについて」『全科協ニュース』Vol.47 No.1、全国科学博物館協議会、2017年、pp.6-7

丹羽晴美

「平成26年度から平成28年度の研究成果と報告」『コンテンポラリーダンスのワークショップと即興の分析による舞踊美学の再構築』報告DVD、文科省研究費助成事業(基盤研究B、一般)、2017年3月

山口孝子

「2015年写真の進歩、展示・修復・保存関係」『日本写真学会誌』第79巻3号、日本写真学会、2016年、p.244
「写真画像の保存～プリントを中心に～」全科協News vol.47 No.1、全国科学博物館協議会、2017年、pp.2-4
「東京都写真美術館における保存の歩み」『日本写真学会誌』第80巻1号、日本写真学会、2017年、pp.6-14
「コラム2 ガラス乾板の劣化について ガラスの組成分解について」『文化財としてのガラス乾板 写真が紡ぎなおす歴史像』勉誠出版、2017年、pp.136-139

【学会発表】

遠藤みゆき

「明治期における写真術の日用品への応用」表象文化論学会第11回大会、立命館大学衣笠キャンパス、2016年7月10日

藤村里美

「プリント作品を収集・保存することについて—東京都写真美術館の場合」日本写真芸術学会創立25周年記念イベント 写真プリントセミナー ～新しいプリント時代の到来のために～、日本写真芸術学会、東京工芸大学中野キャンパス、2016年11月25日

三井圭司

「ミュージアムと写真」ミュージアムITセミナー、筑波大学東京キャンパス、2017年1月30日

山口孝子

白岩洋子、山口孝子、“Study for Approaching Mold Problems on Photographic Materials Using Antifungal Agent and Enzyme Sheet”, Joint Annual Meeting & Conference of the American Institute for Conservation and the Canadian Association for Conservation, Montreal, Canada, May 13-17, 2016.
山口孝子、荒木臣紀、三木麻里、高橋則英、「持続可能型保存ネットワークに関する研究～ダグレオタイプ保存ネットワーク構築の試みからの提案」、第38回文化財保存修復学会、文化財保存修復学会、東海大学 湘南キャンパス、2016年6月26日

【講演会・シンポジウム等】

石田哲朗

「全館改修におけるLEDスポットライトの選定と導入」画像保存セミナー、一般社団法人日本写真学会、東京都写真美術館ホール、2016年11月2日
「写真新世紀東京展2016 ポートフォリオレビュー」レビュアー、2016年11月12日、東京都写真美術館スタジオ

岡村恵子

対談「日仏対談シリーズ ル・ラボvol.12 山城知佳子×ナターシャ・ニジック×墓丸謙」、アンスティチュ・フランセ東京 エスパス・イマージュ、2016年6月16日
講演「フィオナ・タン作品について」クレマチスの丘ホール (IZU PHOTO MUSEUM)、2016年8月7日

笠原美智子

Lecture “Japanese photographic museum: its development and art practice”, Taishin Arts Award, Taishin Bank Tower, Taipei, June 4, 2016

Lecture, “Japanese Contemporary Photography and Japanese Museum of Photography, The National Museum of Modern and Contemporary Art, Seoul, Korea, July 1, 2016

Lecture and portfolio review, “Japanese Contemporary Photography”, Fondazione Fotografia Modena, Italy, December 14, 15, 2016

Lecture, “Japanese Contemporary Photography”, Fondazione Carispezia, La Spezia, Italy, December 17, 2016

トーク・セッション「藏真墨×笠原美智子」nap gallery、2017年1月14日

公開講演「視覚文化とセクシズム：サバイバルのためのアプローチ」(笠原美智子、北原恵、斉藤綾子、清水晶子)、東京大学駒場キャンパス、2017年1月21日

「写真の中のジェンダーについて」幸市民館男女平等推進学習、日吉分館、2017年3月8日

講演会「東京都写真美術館の活動」(英語)、マグナム・ワークショップ、日本写真芸術専門学校、2017年3月19日

来代紀子、菱村宏子

レクチャー「東京都写真美術館図書室について」(アート・ドキュメンテーション学会第9回秋季研究集会) 東京都写真美術館1階ホール、2016年11月3日

関次和子

「神奈川県美術展[写真部門]ギャラリートーク」(神奈川県民ホールギャラリー) 9月17日、金村修(写真家)との対談

「第5回シンガポール国際写真フェスティバル ポートフォリオレビュー」レビュー、10月8～10日

「大橋英児写真展ギャラリートーク」(エプソンイメージングギャラリーウェブサイト) 2月4日、大西洋 (shashasha写作者代表) との対談

武内厚子

大邱フォトビエンナーレ2016 ポートフォリオ・レビュー・プログラム
「Encounter'16」レビュー、韓国・大邱広域市、2016年9月30日、10月1日

田坂博子

パネルディスカッション「創造のためのアーカイブ〜文化芸術資源の活用による新たな表現〜」スポーツ・文化・ワールド・フォーラム文化会議分科会、京都文化博物館別館ホール、2016年10月19日

丹羽晴美

「第24回写真好きのための定例講演会」、日本写真学会、東京都写真美術館2階ロビー、2016年10月25日

「東京都写真美術館リニューアル・オープンと総合開館20周年記念展について」、アート・ドキュメンテーション学会、東京都写真美術館1階ホール、2016年11月3日

「fapaポートフォリオ・レビュー」、日本芸術写真協会、IMA CONCEPT STORE、2016年12月17日

菱村宏子

講演「美術館の司書(職)とは アートライブラリー、美術図書室の経験から」(実践女子大学図書館学課程 Jiseen Librarian Ship の会) 2016年11月19日

藤村里美

トーク・セッション「東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13」(藤村里美、佐藤信太郎、田代一倫、中藤毅彦、野村恵子、元田敬三)、代官山フォト アネックスA、2016年10月1日

トークイベント「世界で活躍したい若手アーティストのために」(藤村里美、小山登美夫、モデレーター 太田睦子)、IMA gallery / IMA CONCEPT STORE内、2017年1月20日

山口孝子

平成28年度画像保存セミナー「東京都写真美術館における保存の歩み」、東京都写真美術館ホール、2016年11月2日

【非常勤講師等】

遠藤みゆき

東京藝術大学大学院映像研究科「映像メディア学特別研究」
2016年6月15日

岡村恵子

早稲田大学文学学術院文化構想学部「コンテンポラリー・アート」
春学期

笠原美智子

明治学院大学大学院「美術史学特殊講義III A, B」春学期・秋学期
九州産業大学大学院「写真特殊演習」2016年7月8日、9日
明治大学理工学部共通総合講座B「写真とフェミニズム」2016年10月12日
千葉商科大学「特別講義(市川市文学ミュージアムII)」2017年1月20日

鈴木佳子

跡見学園女子大学「写真論」春学期

武内厚子

研修講師「第28回東京都中学校美術教育研修会 夏期研修会『美術教育と社会〜つながり・ひろがり・生成〜』」「美術館を活用した対話による鑑賞教育の研修」、東京国立近代美術館、2016年7月25日

田坂博子

明治学院大学文学部芸術学科「デジタルアート論2A」春学期

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」2016年春学期

藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」2016年前期

三井圭司

明治学院大学「写真史写真理論研究」2016年前期・後期
北海道教育大学「ヴィジュアルコミュニケーションデザイン特講IおよびII」2016年度夏期集中講義 8月6日～11日

山口孝子

東海大学課程資格教育センター、「博物館学実習I 写真技術」、春・秋学期集中講義。
東京文化財研究所、東京文化財研究所、平成28年度保存担当学芸員研修、「劣化と保存 写真」、2016年7月14日

【委員・審査員等】

伊藤貴弘

平成28年度(第67回)東京都立高等学校定時制通信制課程芸術祭写真部門審査員

岡村恵子

平成28年度愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像部会委員、平成28年度横浜市美術資料価額評価委員会委員、JUROR, Arkipel social/kapital - 4th Jakarta international Documentary & Experimental Film Festival

笠原美智子

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)、財団法人西洋美術振興財団賞審査委員、財団法人周南市振興財団林忠彦賞選考委員、フォトシティさがみはら2016選考委員、財団法人吉野石膏美術振興財団評議員、公益信託タカシマヤ文化基金「タカシマヤ美術賞」候補者推薦委員、nominator for the Prix Pictet Award, nominator for GD4PhotoART Competition organized by MAST foundation, Bologna, jury for the 14th Taishin Arts Award (Taiwan), エスペール賞選考委員(宇都宮市)、信濃美術館美術館運営専門委員

関次和子

第52回神奈川県美術展審査(写真部門)、第5回シンガポール国際写真フェスティバル審査員

田坂博子

東京藝術大学大学院映像研究科大学院研究課程博士学位論文審査委員

丹羽晴美

東川賞審査員(東川町)、鳥取県立博物館収集評価委員、公益財団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、福島市写真美術館企画専門委員

三井圭司

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト事務局長、史跡上田城跡整備実施計画検討委員

山口孝子

日本写真学会監事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問調査委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員

【インターン】

東京都写真美術館では平成20年度からインターン制度を導入している。原則1年間、指導学芸員と共に美術館のスタッフとして展覧会や教育普及事業を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を目的としている。平成28年度は前半期が大規模改修工事のため、インターンの募集なかったが、海外からの要請に応え、短期のインターンを受け入れた。

ソニア・ルイズ・フリエル, Sonia Louise Friel

オックスフォード大学・エジンバラ大学・ノリッチ芸術大学 博士課程 [フィルム、メディア、美術史]、大和日英基金・大和スカラー 25期生

担当業務: 第9回恵比寿映像祭(企画、事業運営、関連企画など)
指導員: 岡村恵子、柳生みゆき
(期間: 平成28年10月26日～平成29年3月31日)

調査研究・普及活動 (プリントスタディールーム)

東京都写真美術館では、研究のために直接作品等を閲覧する特別閲覧(プリントスタディールーム)制度を設けている。なお、大規模改修工事に伴う作品移転のため、平成28年度は休室。

平成28年度はリニューアル・オープンの準備、総合開館20周年記念展の広報活動を重点的に行った。多言語での情報発信を強化し、「恵比寿の顔となる美術館」として、新たに生まれ変わった東京都写真美術館の存在感を、国内外のさまざまな媒体を通じて広く紹介した。

1 新シンボルマーク・ロゴタイプ

平成28年4月より、新シンボルマーク・ロゴタイプの使用を開始した。封筒・名刺・紙袋等のデザインや、展覧会チラシ・ポスター等の使用マニュアルを制作した。また館内サインを新しくしたことにもない、館内で使用するチラシラックやポスター什器類を整えた。



上) 袋類、封筒・名刺類 下) サインや館内の様子

2 リニューアル・オープンに関する広報

a プレスリリースの配信

リニューアル・オープンに関するプレスリリースを配信した。
 平成28年度事業および「杉本博司」展開催のご案内(4月12日)
 リニューアル・オープン 都庁プレス配信(6月23日)
 リニューアル・オープン プレスリリース(6月末、日英)
 リニューアル・オープン プレス内覧会のご案内(8月10日、日英)

b 記念グッズの配布

リニューアル・オープンプレス内覧会およびリニューアル・オープン記念式典に配布する記念グッズを用意した。



左) エコバッグ 上) トートバッグ
 下) 一筆箋セット、クリアファイル、鉛筆

c リニューアル・オープンプレス内覧会の実施

開催日 平成28年9月1日(木) 13:30-17:00

参加者数 243名

〈主なプログラム〉

施設紹介(1階ホール内)、「杉本博司」展 杉本博司氏による
 展示解説、質疑応答、ポートレート撮影(2・3階展示室)、「世界報道写真展2016」展示解説(地下1階展示室内)



上) 展示解説 下) 1階ホールで施設写真を投影

d 恵比寿ガーデンプレイスでの広報展開

リニューアル・オープンを恵比寿ガーデンプレイス施設や媒体で告知した

- ・広報誌『YEBISU STYLE』(48号) 巻頭特集
- ・スカイウォークバナーの掲出(8月28日-9月11日)
- ・ポスター掲示、各種案内表示の更新
- ・ホームページ掲載
- ・チケット割引サービスのチラシ作成(「チケ得」)
- ・教育普及イベントの開催(8月30・31日:教育普及ページ参照)



上) 『YEBISU STYLE』2016秋号より
 下) スカイウォークバナー掲出の様子



上2点) スカイウォーク内電飾看板 下)「チケ得」チラシ

e ディスプレイシートの掲出

当館の収蔵作品3点を巨大ディスプレイシートにして、1階東側外壁に掲出した。

植田正治 《妻のいる砂丘風景(Ⅲ)》〈砂丘〉より 1950年頃
ロバート・キャパ 《オマハ・ビーチ、コルヴィユ・シュル・メール付近、ノルマンディー海岸、1944年6月6日、Dデイに上陸するアメリカ軍》1944年

ロベール・ドアノー 《パリ市庁舎前のキス》1950年
すべて東京都写真美術館蔵



f プロモーションビデオ、シンボルマークの動画制作

記念式典および車内ビジョン広告用に館プロモーションビデオを制作した。新シンボルマークの動画を制作し、1階ホールの予告で使用した。

制作会社：ライトパブリシティ

クリエイティブディレクター：山根哲也

プロデューサー：篠崎裕美、三上太朗

プロダクションマネージャー：藤代慎太郎

ディレクター：井口皓太

カメラマン：佐藤新也

照明：高野耕平／美術：石井雅宏／音楽：Ray Kunimoto



g 広告出稿

媒体：朝日新聞 朝刊10段3/4記事広告(モノクロ)

掲出日：9月5日(月)

媒体：東京メトロ メトロビジョン(ドア上動画広告)

掲出期間：①8月29日(月)～1週間②11月21日(月)～1週間

媒体：JR恵比寿駅 J・ADビジョン恵比寿駅(ビジョン広告)

掲出期間：9月1日(木)～30日(金)(1ヶ月)

媒体：東京新聞 朝刊 全面記事広告(カラー)

掲出日：11月22日(火)

媒体：yahoo!およびgoogle検索連動広告

掲出期間：平成28年8月29日～9月9日

媒体：Yahoo!アドネットワーク インフィード広告

掲出期間：8月29日～9月9日 900万PV想定



左) メトロビジョン 右) 東京新聞

3 広報誌「写真美術館ニュースeyes (アイズ)」発行

(vol.87、vol.88、vol.89、vol.90) 発行部数各30,000部
新シンボルマーク・ロゴタイプの使用に合わせて、広報誌のデザインを刷新した。

〈主なコンテンツ〉

87号(平成28年7月7日発行) 四つ折り

リニューアルオープン告知、新シンボルマーク紹介、「杉本博司」展作家インタビュー、展覧会スケジュールなど

88号(平成28年8月31日発行) 四つ折り

リニューアルオープン告知、館内マップ、展覧会紹介、年間パスポート紹介など

89号(平成28年11月21日発行)

「アピチャップン・ウィーラセタクン」展学芸員インタビュー、展覧会紹介、スタジオ、図書室、ショップ、カフェの紹介など

90号(平成29年3月6日発行)

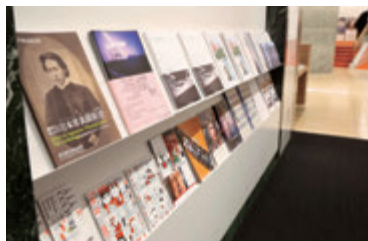
「ダヤニータ・シン」展学芸員インタビュー、展覧会紹介、対話による作品鑑賞など



左) 87号 右) 88号

4 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に、プレスリリースと展覧会チラシ・ポスターなどの配布をおこなった(プレス730件、ポスター300件)。チラシ・ポスターは館内および館周辺にも掲出した。



5 プレス対応

平成28年度は、リニューアル・オープンおよび総合開館20周年記念展に関して、国内外プレスからの多数の取材依頼に対応した。また広報東京都、ART NEWS TOKYO、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigationなど東京都・財団関係メディアへの情報提供をおこなった。

大規模改修のポイントや運営方針を中心にリニューアル・オープンをメインにした取材や、展覧会と作家へのインタビュー取材の両方に積極的に対応した。教育普及事業も積極的にホームページや広報誌でとりあげ、当館の活動の幅広さをアピールした。

広報記録

展覧会名(新聞、雑誌、WEB、テレビ・ラジオ)

杉本博司 ロスト・ヒューマン(123件、86件、84件、11件)

TOPコレクション 東京・TOKYO(78件、43件、72件、1件)

東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13(62件、42件、62件、1件)

アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち(62件、51件、82件、3件)



プレス内覧会

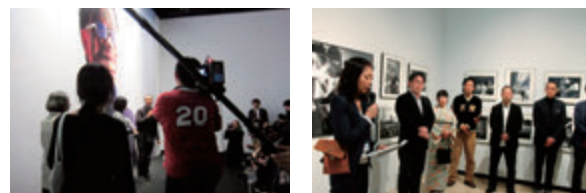
展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)

杉本博司 ロスト・ヒューマン(平成28年9月1日、181社、243名)

TOPコレクション 東京・TOKYO/東京・TOKYO 日本の新進作家vol.13(平成28年11月21日、49社、60名)

アピチャップン・ウィーラセタクン 亡霊たち(平成28年12月12日、42社、56名)

夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編/山崎博 計画と偶然(平成29年3月6日、57社、69名)



6 ホームページの改訂および運営

新シンボルマーク・ロゴタイプに親和する、明るく洗練されたサイトデザインに改訂し、リニューアル・オープンと総合開館20周年事業の情報を通年で発信した。PC、タブレット、スマートフォンなど、異なる端末からも視認性の高いWebフォントを導入した。また4カ国語（日本語、英語、中国語〔簡体字〕、韓国語）ページに対応し、館概要やコレクション方針など重要なコンテンツが多言語化された。

2016年4月～2017年3月末までのページビュー総数3,874,118PV（最高は2016年9月の484,611PV）



7 SNSを生かした広報

公式ツイッターを使い、展覧会開催、イベントおよびワークショップ参加者募集などを告知し、公式ホームページ内への誘導を図った。さらにSNSの機能を利用した広報を実施した。主な事例は下記のとおり。

a. 「第9恵比寿映像祭」

会期中にツイートをおこない、イベント開催告知やチケット販売情報の最新情報をいち早く流した。短期間開催の本展ならではのライブな情報発信でお客様への周知を図った。

b. 「日本写真開拓史」展

「写真開拓史展ひとことガイド」と題し、ツイート上でミニ展示解説を21回（21作品分）おこなった。本展を見るために知っておきたい初期写真史で重要な作品、重文作品、展示期間が短い作品を中心に解説し、来館を促した。

c. 「山崎博 計画と偶然」展

公式ホームページ内に、世界中の全ツイートから「山崎博」「計画と偶然」の2つのワードを満たすツイートのみを表示するコーナーをつくった。コアなファンや写真愛好者が好むという本展の特徴を生かし、展覧会を見た素直で好意的な感想が、来館を検討する層にダイレクトに伝わる工夫をした。リツイートや感想を書いたブログへのリンクが多くあり、口コミが広がる様子が伝わった。



山崎博司展ページ内のツイート表記

8 広告出稿

a. 「TOPコレクション」「日本の新進作家」

Yahoo!インフィード広告および検索広告
120万PV想定 11月21日（月）～30日（水）

b. 「TOPコレクション」「日本の新進作家」

朝日新聞 夕刊美術面下 モノクロ 5段1/2
11月22日（火）

c. 「アピチャッポン・ウィーラセタクン」

朝日新聞 夕刊美術面下 モノクロ 5段1/2
12月13日（火）

d. 「年始開館広告」

朝日新聞 朝刊1都6県エリア モノクロ5段1/4
12月31日（土）約340万部

読売新聞 朝刊1都6県エリア モノクロ5段1/4
12月31日（土）約500万部発行

e. 「国際シンポジウム 幕末」「日本写真開拓史」展

朝日新聞 朝刊 モノクロ 全5段
3月4日（土）約360万部

f. 「国際シンポジウム 幕末」「日本写真開拓史」展

読売新聞 朝刊 モノクロ 10段3/4
3月22日（水）1都6県エリア 約500万部

g. 「国際シンポジウム 幕末」「日本写真開拓史」展

東京メトロ 銀座駅内 日比谷線コンコースビジョン広告16面
3月1日（水）～31日（金）

h. 「日本写真開拓史」展

東京メトロポード B1ポスター掲出

6駅（表参道、銀座、東京、乃木坂、竹橋、神保町）

3月22日（水）～28日（火）もしくは3月20日（月・祝）～26日（日）

9 『東京都写真美術館概要』

館の活動をわかりやすく紹介した概要を作成した（日英併記、3000部）。改修された施設を中心に、新しく撮影した写真と文章で紹介した。展覧会事業、教育普及事業、支援会員をはじめ幅広く活用した。



10 記者懇談会の実施

①開催日：平成28年6月8日（水）

出席者数：18媒体、25名

〈主なプログラム〉

【第1部】東京都写真美術館 1階スタジオ

・平成27年度 事業報告及び平成28年度 運営報告

- ・総合開館20周年記念事業のラインナップ、リニューアル・オープン概要
- ・法人支援会員のご紹介
- ・館内各施設のご案内

【第2部】2階ロビー

伊東館長、館職員との懇談会

②開催日：平成29年1月18日（水）

出席者数：17媒体、20名

〈主なプログラム〉

【第1部】東京都写真美術館 1階スタジオ、2階・3階作業室

- ・平成28年度事業実績（12月末現在）他
- ・平成29年度東京都写真美術館事業の概要について
- ・「第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来」について
- ・平成28年度新規収蔵品の紹介及び定見

【第2部】1階カフェ メゾン・イチ

伊東館長、館職員との懇談会



記者懇談会風景（平成29年1月18日）

11 広報誌別冊「nya-eyes（ニアイズ）」vol.64～vol.75発行

月刊、発行部数：各号30,000部

展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画「クレムリン」（カレー沢薫、講談社）とコラボレーションした「nya-eyes」（ニアイズ）を発行。64号より新シンボルマークを使用したデザインに改訂した。



12 「恵比寿の顔となる美術館」としての取り組み

1) 恵比寿ガーデンプレイスとの協力

開館準備期間より、新愛称やシンボルマークの周知を行い、近隣やオフィスワーカーに美術館の存在感をアピールした。また、開館直前企画として、恵比寿ガーデンプレイスと協力し、当日参加型のオープンワークショップを実施した。

2) お正月開館

1月2日、3日には「トップのお正月」として新春を祝い、各日先着50名に「東京都写真美術館オリジナルグッズ」を提供した。また、橘雅友会による雅楽演奏「とっぶ雅楽」（計4公演）を開催し、館内は多くのお客様で賑わった。3日には3階、地下1階展示室でギャラリートークを開催した。

「とっぶ雅楽」

（各日13時、15時に開催）

開催日：1月2日（月・祝）参加者数：計283名（136/147）

開催日：1月3日（火）参加者数：計149名（43/106）



上) とっぶ雅楽
下) ギャラリートーク（3階）

3) その他

「駅直結ルートマップ」の作成

恵比寿駅東口から当館までのバリアフリールートを採用し、車椅子やベビーカー連れの方にもアクセスしやすい案内図を作成した（日英併記、10,000部）。駅直結型の美術館をアピールし、アクセシビリティの向上を図った。

